

令和4年度 東久留米市立 久留米中学校 学校評価報告書

学校教育目標	平和で民主的な国家形成のため、社会連帯性と実践力に富んだ主体性のある個性豊かな社会人を育成する。	教育ビジョン	【目指す学校像】	○安全で安心して生徒を通わせることのできる学校 ○社会的自立ができるよう、生徒一人一人の進路を実現できる学校	○一人一人に生きる力(確かな学力、豊かな人間性、健康と体力)をはくむ学校 ○人権が守られ、保護者・生徒と教師の信頼関係が築かれている学校
	○知性を高める ○心を豊かにする ○体を鍛える		【目指す児童・生徒像】	○自主性、自覚心、自治能力を伸ばし発揮する生徒 ○根拠に基づいて自分の考えを表現できる生徒	○対話を通して学び続ける生徒 ○未来を予測して計画を立てることのできる生徒
			【目指す教師像】	○1時間1時間の授業をデザインし、生徒の学力を伸ばす教師 ○生徒の可能性を信じ抜き、未来を開く教師	○人権感覚をもち生徒一人一人を大切にしている教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	○自他を大切にできる人間関係の中で教育活動を進めることができ、生徒のアンケートの「偏見やいじめを許さない学校である」が91.6%の回答を得ることができ、人権が尊重される学校である。いじめの報告件数がふれあいアンケートで10件あったが早期発見ができたが、生徒会のいじめ撲滅活動と共に力を入れて取り組む課題である。 ○命を大切にできる教育ができ、生徒アンケートの「命を大切にしている」が93.8%の回答であり、特別の教科道徳の授業や校長講話において適時指導を継続する。 ●学習面において生徒アンケート「わかりやすい授業」が81.6%となり、授業改善の余地が十分にある。また、家庭学習の努力目標時間、1年生60分以上、2年生90分以上、3年生120分以上の達成率が58.8%と大きな課題となった。家庭での予習・復習の基本的な学習ができるように各教科で指導を行っていく。 ●自己有用感や自己肯定感を高める指導について、生徒アンケート「生徒をほめ、良さを認め、自信をもって活動できるよう支えてくれる」の回答が87.1%であることから、さらに重点として意識して取り組む必要がある。				

東久留米市第2次教育振興基本計画				中期経営目標	短期経営目標	評価指標・評価基準		自己評価		学校関係者評価		次年度の方策	
No.	三つの柱	基本施策	今年度学校で重点を置く「具体的施策」	(令和6年度までの3年間)	(1年間)	取組指標	成果指標	取組	成果	評価	コメント		
1	I 健全育成	個性を認め合う教育の推進	自己肯定感・自己有用感の醸成	生徒が主体的に自信をもって学校生活を送ることができる。	生徒が主体的に活動へ参加する。	生徒を褒め、良さを認め、自信をもって活動できるように支えられたかを、学校関係者アンケートの肯定的回答を80%超とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 100%	生徒アンケート 87.9% 保護者アンケート83.2%	4	4	4	★終わりそうで終わりの見えないコロナ禍で3年間を過ごした生徒もやっとなり学年が実施でき、少しは思い出が作れたでしょうか。各職コンクールはリアルでの参加が叶わず残念でしたが、安全優先の方針はご家族にもご理解が頂けていたのではないのでしょうか。アンケートでは「マチコミ配信」や配布物のWEB化」の要望も多く、特にマチコミのタイムラインには多くのご家族に喜んでいただけているようですね。 ★一年生の保護者からの声で、指導方法や子供達との距離感等のご意見が多かったのはとても気がなりました。制限の厳格な多様な対応は学校の先生方にご負担にならない程度で対応できた良いと思いますが、なかなか大変そうですね。 ★今年度までは感染対策が大変だったと思います。本当に子供達の安全安心のためにご尽力下さりありがとうございました。 ★マシコミ配信、制約された形での行事実施など、学校運営に工夫を凝らしていることが伺えます。保護者が学校行事に参加する機会が減っている中、ホームページやメール等により情報提供を行っていることは、保護者からも評価されており、今後も継続して行ってみたい。さらに付するならば、教職員の回答(No.16)で6割の人が「ややそう思う」と回答していることから、一部ではなく、より多くの方に理解を促す必要を感じます。 ★学校評価アンケートの結果について、示されている数値が有効回答数における割合で示されているので、調査対象の総数や回答数(回収済)などが判るとより実態が把握でき、評価もしやすいと感じました。 ★コロナ禍で中学生ならではの学校行事や様々な取組が厳しく制限されて3年間を過ごした子ども達に初めて卒業を迎える。今後多くのwithコロナ時代を生きていくためには、強靱な精神力としなやかな身体性、レジリエンス、失敗や休養を許す寛容性、他者だけでなく内なる自己に耳を澄ますことが許容と思われ、縮こまりがちな中学校生活を学校と保護者双方で広く深く広げたいよう、協働して頂きたい。
2	I 健全育成	安全・安心な学校づくり	教育相談体制の充実	生徒一人一人を大切にしている教育を実践する。	校内委員会の充実と情報の共有を図る。	生徒一人一人を大切に、丁寧な教育活動を行い、学校関係者アンケートの肯定的回答を80%超とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 100%	生徒アンケート 83.7% 保護者アンケート79.2%	4	3	3	・生徒一人一人を大切にしている教育を推進するためには、教職員の人権感覚の向上が重要である。そのための外部での研修会への参加や校内における研修会の実施を計画する。合わせて生徒理解のために職員会議、生活指導部会、学年会における生徒理解のための情報交換の時間を確保し、特に困り感のある生徒をアンテナを高めて発見し、生徒、保護者とよく話し合い、適切な対応を行っていく。
3	I 健全育成	いじめ問題への対応	いじめ防止対策推進基本方針に基づいた取り組みの推進	いじめ防止と早期発見、早期対応を行う。	生徒会活動として各種委員会においていじめ撲滅の取組を考え活動し、主体的にいじめを発生させない環境をつくる。発生した場合は、学校いじめ対策委員会を十分に機能させ早期解決を図る。	自他を大切に、偏見やいじめを許さない指導を行い、学校関係者アンケートの肯定的回答を80%超とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 100%	生徒アンケート 89.9% 保護者アンケート83.2%	4	4	4	・全教職員でいじめの早期発見、いじめのない学校づくりを推進するために、特別な教科道徳においていじめに関する授業の実施、生徒会活動によるいじめ撲滅運動を全校で生徒が主体的にすすめるようにサポートし、いじめが許されない雰囲気醸成する。また生徒が相談できる、相談しやすい職員体制を築き、定期的にいじめに関するアンケートも実施する。 ・生徒会本部役員が令和4年度の「全国いじめ問題子供サミット」へ参加するので、還元させる。
4	II 学力向上	確かな学力の育成	基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上	授業改善への意欲の向上と生徒の主体的な学びへの意欲向上。	分かりやすい授業となるように授業改善を図る。	分かりやすい授業となるように授業改善を図り、学校関係者アンケートの肯定的回答を80%超とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 100%	生徒アンケート 81.1% 保護者アンケート69.9%	4	2	2	・基礎的・基本的な学力の定着と学ぶ意欲の向上のために、教科担当の分かりやすい授業改善への意欲向上と授業時間の質問しやすい雰囲気づくりと補習の場を設定する。各学期始めには評価・評定への説明を確実に実施し、意欲向上につなげる。 ・主体的、対話的で深い学びとなる授業改善とともに、全生徒に配布されたタブレットを活用した効果的授業ができるように教員の研修を深める。
5	II 学力向上	確かな学力の育成	家庭学習の積極的な展開	家庭学習の充実と定着を図る。	各教科や各学年から、家庭学習で学習内容を復習することの重要性を十分に伝え、生徒の家庭学習の習慣を定着させる。各学年の家庭学習実施時間を1年生60分以上、2年生90分以上、3年生120分以上と努力目標時間を設定し、家庭学習の充実と定着を図り、確かな学力を育成する。	家庭学習実施時間を1年生60分以上、2年生90分以上、3年生120分以上と努力目標時間を設定して習慣化を図り、学校関係者アンケートの肯定的回答を60%超とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・60%以上 2・・・40%以上 1・・・40%未満	教員アンケート 82.6%	生徒アンケート 62.0% 保護者アンケート48.8%	4	2	2	<1・2・3の健全育成について> ●2の「生徒一人一人を大切にしている教育の実践」について教員と保護者で意識の相違が認められる。保護者のアンケート自由記述でも、親身の経験や寄り添った指導への感謝の記述の一方、信頼を欠く指導や態度への批判も散見され、一人一人に寄り添って大切に育む姿勢が求められている。また、教員間でのバラツキがあると思われる。 <4・5・6の学力向上について> ●教員と保護者で、評価の差が最も顕著にみられた。コロナ禍で保護者が教育現場に立ち会えなかった事情を鑑みても、中学校の本分である学力向上・定着については、保護者も成長への理解が得られるまでの、教員の授業力・指導力向上の取り組みが必要。特に、「主体的、対話的で深い学びの実践」を通じてのコミュニケーション能力の育成は、昨今の厳しい社会状況を生きていくためのレジリエンスを培うことにもなり、喫緊の課題。 ●取組と評価に2段階の差が出ています。これは、学校に対する保護者の期待値の低減が原因かと思われ、この差を埋めたい工夫と改善が必要と感じました。 ●5の家庭学習の重要性についてご家庭とも協力しながら生徒自身が意識して取り組めるようにご指導を宜しくお願いします。 ●5の家庭学習については、生徒個人や家庭環境など、取組が異なる原因があるとは思いますが、保護者の半数が肯定的見解を持っている現状を踏まえ、改善に向け、今後の取組に期待したい。 ●6の言語活動について、コミュニケーション能力の育成は、社会生活を円滑に送る上で重要なスキルである。生徒の2割、保護者の3割が否定的回答であることから、両者がその向上が図られたと認識できるよう、工夫してもらいたい。
6	II 学力向上	確かな学力の育成	言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成	各教科で計画的に言語活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びを実践し、コミュニケーション能力の向上を目標とする。	各教科で計画的に言語活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びを実践し、コミュニケーション能力の向上を図る。	各教科で計画的に言語活動を取り入れ、主体的、対話的で深い学びを実践し、コミュニケーション能力の向上に関する学校関係者アンケートの肯定的回答を80%以上とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 95.7%	生徒アンケート 76.7% 保護者アンケート68.0%	4	2	2	・言語活動の充実によるコミュニケーション能力の育成のために全教科の授業において計画的に話し合い活動や説明する場面、発表する機会などの言語活動を積極的に取り入れ、主体的、対話的で深い学びを実践していく。また特別活動においてもコミュニケーション能力の向上を意識した活動を計画的に取り入れる。
7	III 教育環境の整備	安全・安心な学校づくり	地域や保護者と連携した防災教育	危機管理を徹底した学校づくりを行う。	安全指導・防災教育を推進し、適切に行動できる生徒を育成する。	毎月の避難訓練の実施及び安全指導、防災教育を推進し、消防署や青少年センターと連携した防災教育に取り組み、適切に行動できる生徒を育成する。また冬時間の部活動の最終下校時刻を6時30分とする。学校関係者アンケートの安全・安心項目の肯定的回答を80%以上とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 95.7%	生徒アンケート 82.2% 保護者アンケート82.5%	4	4	4	・毎月計画された安全指導と避難訓練を実施する。予告なしの避難訓練や休み時間の緊急放送を確実に聞けるように指導し、臨機応変に対応できる生徒を育成する。 ・消防署と連携した防災教育を実施する。 ・冬時間の部活動下校を午後5時30分とする。 ・感染防止対策の徹底を指導する。
8	III 教育環境の整備	特別支援教育の充実	特別支援教育の充実	発達の特長や難聴に関する理解を深め、共生社会を目指す。	難聴通級こたまま学級、特別支援教室けやき、発達特性のある生徒への正しい理解と支援ができるよう指導する。	教員、生徒に向けた研修を通して難聴生徒、発達特性のある生徒の理解を深め、発達特性のある生徒を意欲的に教室整備を行うことにより、学校関係者アンケートの肯定的回答を80%以上とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 91.3%	生徒アンケート 88.6% 保護者アンケート87.2%	4	4	4	・特別に支援を要する生徒理解と対応の仕方についての研修会を実施する。 ・年度始めに、本校に設置されている難聴通級学級(こたまま学級)、特別支援教室(けやき教室)について教員及び生徒に向けた難聴生徒、発達特性のある生徒の理解を深め、認め合うための説明会や講演会を実施する。 ・発達特性のある生徒を意識した教室整備を行う。
9	III 教育環境の整備	児童・生徒の主体的な取組	ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫	授業において一人一台貸与とされているタブレット端末を使用する授業時間を多く展開し、授業において生徒が主体的に活用できるようにする。	今年度の校内研修会にて「思考力・判断力・表現力を育むICTの活用」として研究を推進し、授業において一人一台貸与とされているタブレット端末を使用する授業を展開する。	年度末の教員アンケートにおいて、一人一台のタブレット端末を使用した授業時間を年間6時間以上実施した教員を80%以上とする。	肯定的回答 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・60%未満	教員アンケート 60%	教員アンケート 60%	2	2	2	・ICT機器活用等による多様な指導方法の工夫が幾つかの教科においては実施できているが、全生徒に配布されたタブレットを活用した効果的授業についてはほとんどできていない状況である。講師を招聘しての研修会を実施した上で、使用頻度を高めることにより、教員自身が自信をもてるようにしたい。市の授業改善研究会での研究授業でのタブレットを活用した効果的な授業を期待し、還元研修ができることと良い。
10	III 教育環境の整備	各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進	ライフ・ワーク・バランスの改善	会議の効率化を図り、時間外勤務を減少させる。ライフ・ワーク・バランスへの満足度を向上させることを目標とする。	職員会議の議題の周到な事前準備と企画会議での十分な検討により職員会議の時短を図り、ライフ・ワーク・バランスへの満足度を向上させる。	○職員会議の1時間以内を80%超とする。 ○ライフ・ワーク・バランスへの満足度70%超とする。	○職員会議 4・・・80%以上 3・・・70%以上 2・・・60%以上 1・・・50%未満 ○満足度 4・・・70%以上 3・・・60%以上 2・・・50%以上 1・・・50%未満	●職員会議 80%以上 ●満足度 47.8%	4 1	4 1	2	・やりがいのある職場づくりを目指す。そのために教員間の話し合い、連携を密に改善する。 ・教育活動の早めの計画、会議の短縮化、定時退勤週間の設定等により、時間を効率化した業務を推進する。	